尼崎市教育振興審議会 第6回審議会 議事録

日時	令和7年1月29日(水) 17:00~18:00
開催手法	対面
出席委員	堀田会長、石橋委員、川上委員、北地委員、芹澤委員、時水委員、庭山委員
欠席委員	なし

・パブリックコメントの結果について

会長：「意見を参考にする」等の実施結果の内訳について、記載はそのまま HP に載るのか。

事務局：そのまま掲載される。

会長：内訳の説明付記はあるか。

事務局：対応可能か、確認する。

会長：出てきた意見を見ると、学校に1人1台端末が入ったことなど、ICTに関する意見が少ない。他市では結構意見が出ていることもあり、先生方・子どもたちへの端末の配置の理解が進んでいるのでは、と思う。

委員：パブリックコメントは、対象は何名か。

事務局：市内在住者はもちろん、市外在住者も意見を出せるため、母数が明確に決まっているわけではない。

委員：4名というのは、妥当な人数なのか。

事務局：意見の件数は案件によってバラつきはあるが、市立学校園の全保護者にアンケートの案内をしているため、計画に声は反映できていると感じている。

会長：現行計画策定時のパブリックコメントの意見数はどうか。

事務局：4名34件である。

委員：合計件数が72件とはならないのはなぜか。

事務局：今回の案件に関係のないものは件数にカウントしていない。

委員：その数も分かるように記載をしてほしい。意見が正確に反映されていないと誤解を招かないように。

・答申

会長：学びと育ち研究所の記載について、唐突感がある。また、同研究所が教育委員会の中にあるとの認識になる可能性がある。教育委員会との位置関係が分かるようになった方がよいのでは、と思う。

事務局：積極的に連携をしていく立場であることを踏まえて、こうした記載としている。

委員：学びと育ち研究所のHPへのリンクを貼るといったことも考えられるが、5年間使用する計画なので、原案の記載で良いと思う。

委員：教育委員から17ページの自らを調整する力などの自助できる力をつけるといった主

旨の表現について、環境・状況が整わない子をどうするのかという意見が出てきたと思うが、各論2で共助公助の話が出ており、原案のとおりで良いと考える。また、36ページのワークエンゲイジメントの部分も35ページには働き方改革の指標もあり、バランスを取ることが重要だ、と伝わって良いと思う。こういった視点は、市民などに説明をする際に理解を深めるポイントになると思う。

委員：ワークエンゲイジメントと在校時間の削減の両立は難しい点である。バーンアウトなどのネガティブなことを1つの指標とすることも考えたが、原案の指標である活力を得ているかがに着目することは、良い視点だと思う。

委員：働き甲斐を重視する人と働き方改革を重視する人がおり、そのバランスを取るために、様々な工夫をすると思うが、ストレスの要因はそれぞれ違う。どう対応していくのが良いのか。

委員：一番大事なのはいわゆる職場の一体感のような、思ったことが言える風通しの良い職場が重要であると考えます。

会長：それでは、意見も出尽くしたようなので、答申を行いたい。

以 上